

こどもと健康

NO・141

2013・11・21

インフルエンザワクチンを接種しよう！

10月15日からインフルエンザワクチン接種を始めました。インフルエンザは毎年多かれ少なかれ流行がありますので、流行が始まる前に接種しておく必要があります。今のところ、インフルエンザの大きな流行はなく、感染症サーベイランスでも11月4日からの第45週に大阪府下300の医療機関から22例の報告があり、学級閉鎖もありません。堺市でも散発的に見つかりますが、流行には至っていません。しかし、例年大阪では12月になって流行が始まり、年明けから3月頃が流行のピークです。できるだけ年内にワクチン接種を終えましょう。年明けでも有効ですが、免疫が出来るまでに2週間程度は必要です。生後6ヶ月から13歳未満の子は4週間間隔で2回、13歳以上は1回接種します。ワクチンによる副反応は微熱が出たり注射部位の発赤、腫脹、痒み等がありますが、すぐに軽快します。

インフルエンザワクチンの予約について

インフルエンザワクチンの予約を受付中です。携帯電話、パソコンから下記アドレスにアクセスして予約をお願いします。13歳未満は2回接種ですので4週間隔(3~5週で可)で2回とも予約して下さい。接種料金は1回2500円です。ワクチンが無くなり次第、受付は一旦中止しますが、追加ワクチンが入手できれば、予約を再開しますので、ご確認下さい。尚、web予約は12月20日迄ですので、12月21日以降は電話でお願いします。

<http://0722977771.com/i/>

RSウイルス感染症、流行中！

例年、寒くなるとRSウイルス感染症が増えてきます。このウイルスの感染力は強く、保育所を中心に流行します。インフルエンザウイルスと同じく、冬のウイルスですが、今年は昨年同様9月から流行しています。潜伏期は4~5日で鼻水、鼻づまり、咳があり、発熱を伴う事もあります。特に、6ヶ月未満の乳児が罹ると、更に喘鳴(ヒューヒュー、ゼーゼー)を伴った咳をして呼吸数が増え、陥没呼吸をします。ウイルスを含んだ鼻汁や分泌物が気管支に流れこむ為、気管支炎から細気管支炎が起こるのです。次第に哺乳できなくなり、新生児では無呼吸になることもあります。気管支炎、細気管支炎から気管支肺炎となることがあるので、注意が必要です。ありふれたウイルスですので、1歳までに半分、2歳までに殆んどの子が一度は感染すると言われていますが、初感染の時に最も症状が強く出ます。何度でも罹患しますが、年長児になると次第に症状は軽くなり、鼻カゼ程度で終わる子もいます。しかし、今年は年長児でも気管支肺炎を併発して入院が必要な子がいます。お母さんからの免疫移行がない為、新生児が罹患して重症化することがあります。寒くなるにつれて増加し、去年は年末に流行のピークとなり、春まで流行が続きました。泉北ニュータウンでも流行している保育所があります。RSウイルスの迅速検査が

ありますので、ヒューヒュー、ゼーゼーを伴う乳幼児は早めに受診しましょう。

小児用肺炎球菌ワクチンの補助的追加接種！

本年4月から定期接種となった小児用肺炎球菌ワクチンが7価から13価ワクチンに強化されました。93種ある肺炎球菌のうちこれまでは7種でしたが、13種が入ったワクチンが接種できるようになったのです。1回でも7価ワクチンを接種した場合も、11月1日以降に接種する時には13価ワクチンを接種します。初回3回と追加接種の4回接種は変わりません。尚、既に7価の接種が終了した6歳未満の幼児も残りの6種の免疫をつける為、1回だけ任意接種（有料で12000円）を受けることができますので、ご相談下さい。

肺炎球菌はありふれた細菌ですが、乳幼児が罹ると髄膜炎、敗血症、肺炎等の重症肺炎球菌感染症となり、命にかかわることがあります。保育所園児のノドを調査すると4カ月児17%、7カ月児28%、10か月児36%、1歳6カ月児48%が保菌者であったというデータもあります。保菌者は無症状ですが、免疫力が低下すると、発病することがあります。7価の小児用肺炎球菌ワクチンが公費負担で接種が始まって3年目になります。ワクチンに含まれる7種による重症感染症は10分の1以下にまで減少しましたが、ワクチンに含まれないものは変化がありません。生後10カ月までに半数が3歳までに80%が一度は保菌すると言われます。既に接種が完了していても集団生活をしている6歳未満児は1回接種（補助的追加接種といいます）を受けるようにしましょう。尚、高齢者に接種される23価肺炎球菌ワクチンは全く別物ですので、小児には接種できません。

先天性風疹症候群増加中！

昨年から関西で始まった風疹の流行は、今年になって関東に拡大、その後ふたたび関西でも流行しましたが、大阪ではやっと流行は終息したと思われれます。11月4日からの第54週までに全国から男10,912例、女3,339例の14,251例が報告され、女性では出産適齢期の20歳代が40%を占めます。その為、心配していた通り先天性風疹症候群が増加してきました。昨年秋から関西を中心に5例（大阪の1例はその後撤回されたので4例）が、今年になって11月6日現在、関東を中心に22例が報告され、大阪でも最近相次いで2例が報告され今年になって4例（他に大阪で感染し、三重県で出産した1例）となりました。関西では4月以降に流行しましたので、年明けまでは先天性風疹症候群の児が発生する恐れがあります。

全国的にも今年の流行はこのまま終息するでしょうが、来春再び流行する可能性があります。予防にはワクチン接種しかありませんが、妊婦さんにワクチン接種はできませんので、ご主人始め同居家族が風疹ワクチンを受けるようにして下さい。1回しか接種を受けていない世代の24歳以上で（23歳以下でも高校3年生の時に2回目のMRワクチン接種を受けなかった人も）将来妊娠を希望する女性は今のうちにワクチン接種を受けて下さい。

年末年始の休診

12月30日（月）は午前診のみ、午後休診

12月31日（火）～1月5日（日）は休診

休診中は堺市泉北急病診療センターを受診して下さい。